2010 年 4 月 1 日

各位

Medicinova, Inc.
代表取締役社長兼 CEO
岩城　裕一
コード番号：　4875　大証ヘラクレス
問合わせ先：　東京事務所代表　副社長
岡島　正恒
電話番号：　03-3519-5010
E-mail：　info@medicinova.com

神経学専門誌「Neurology」への MN-166 に関する論文掲載のお知らせ

2010 年 4 月 1 日　米国　サンディエゴ発　-　メディシノバ（MediciNova, Inc.）（米国カリフォルニア州　サンディエゴ、代表取締役社長兼 CEO：岩城裕一）は、今週号の神経学専門誌「Neurology」に、多発性硬化症治療を目的とする MN-166 の臨床における有用性と薬理作用に関して、2 本の論文が掲載されましたのでお知らせします。

1 本目の論文発表では、フレデリック･バークホフ博士（アムステルダム自由大学メディカルセンター）らが、ヨーロッパで 2 年間にわたって実施され、2008 年に完了した当社の臨床試験（MN-166-Cl-001）において明らかとなった MN-166 の有効性及び安全性について、詳細な論述を行いました。この論文の中で、バークホフ博士らは、すでに当社のプレスリリース及び「多発性硬化症の治療研究国際会議」（WCTRIMS）でのプレゼンテーションにおいて要約されている MN-166 の臨床試験結果について考察し、イブジラスト（MN-166）の明らかな臨床上の有益性を神経保護作用と関連付けています。2 本目の論文では、多発性硬化症のスペシャリストであるロバート・フォックス医師（クリーブランドクリニック）が「直接的な神経保護作用―多発性硬化症治療における聖杯」と題して記事論評を寄せています。この論評の中で、フォックス医師はまず、一次進行性及び二次進行性多発性硬化症において、神経変性と障害の進行に治療効果を示すことの困難さについて述べております。その後、同医師は、バークホフ博士らの論文に言及し、イブジラストに特有の作用が、他の多発性硬化症治療薬（すでに薬事承認を受けたものか開発中のものかを問わず）とイブジラスト（MN-166）とを差別化できる可能性を示唆しています。特に同医師は、イブジラストの持つ非選択的なホスホジエステラーゼ（PDE）阻害及びグリア細胞（活性常在脳炎症細胞）の改善作用が、進行性多発性硬化症に付随する神経変性における「くすぶり型」の炎症特性を抑制することができるのではないかと指摘しており、さらに、これは、パーキンソンやアルツハイマー病などその他の疾患に適用拡大する可能性があるとも述べています。

上記１本目の論文主席執筆者、バークホフ博士はさらに、臨床試験による有効性評価の結果、脳萎縮の減少及び病変から持続性のブラックホール（MRI で確認される永続的な脳の病変で、脳細胞の死滅を示唆するといわれています）へ進展する割合の減少が、障害の進行の遅延（減少）の割合と合致することが明らかになったことから、イブジラストには病変内のニューロンを急性炎症後の持続的ダメージから保護する作用があると示唆しています。

イブジラストはまた、昨年当社が買収したアヴィジェンにおいても、慢性神経因性疼痛及び薬物乱用治療への新しいアプローチとして開発されてきました。2009 年 12 月に完了しました当社によるアヴィジェンの戦略的買収後、当社は、増強された前臨床及び臨床データ、承認済みまたは申請中の使用特許及びアナログ（類似体）特許などを含む、イブジラストに関する開発プログラムを統合いたしました。当社の MN-166-Cl-001 臨床試験で用いた一日 30mg 及び 60mg の MN-166 投与のデータに、アヴィジェンがすでに実施した臨床試験における、一日 100mg の MN-166 投与のデータが加わり、神経性疾患の治療薬として MN-166 の開発を続けるにあたり、より強固な論理的根拠を得たと当社は考えております。

以上

メディシノバについて

メディシノバ（Medicinova, Inc.）は、日本内外の国際的製薬企業との提携により有望な低分子化合物を導入し、様々な疾患領域の新規医薬品の開発を主として米国で行う公開製薬企業です。弊社のパイプラインには、喘息急性発作、COPD（慢性閉塞性肺疾患）、多発性硬化症を初めとする神経疾患、神経因性疼痛、薬物依存、喘息、間質性膀胱炎、固形癌、全般性不安障害、切迫早産、尿失禁など、多様な疾患の治療を目的とする 6 つの臨床段階の化合物と、血栓症治療を目的とする 2 つの前臨床段階の化合物が揃っております。メディシノバは、当面その戦略として、喘息急性発作及び COPD の治療薬 MN-221 と多発性硬化症及びその他の中枢神経系疾患治療薬 MN-166/AV411 との 2 つの優先的開発化合物に資源を集中して開発を進めていく予定です。MN-221 については、米国内で独自に開発を行い、一方 MN-166/AV411 については、開発に際して、戦略的な提携関係を構築することを考えております。また、他の製品候補につきましても、現金化を試みて参ります。弊社詳細につきましては http://www.medicinova.jp をご覧下さい。メディシノバの所在地はアメリカ合衆国カリフォルニア州サンディエゴ市ラ・ホイヤ・ヴィレッジ・ドライブ 4350、スイート 950（電話 1-858-373-1500）です。

このプレスリリースには、1995 年米国民事証券訴訟改革法（The Private Securities Litigation Reform Act of 1995）に規定される意味での「将来の見通しに関する記述」が含まれている可能性があります。これらの記述には、製品候補の治療法としての新規性および効能を実証する臨床試験に関する記述、既存または将来の臨床試験の計画や目的および製品開発に関する計画または目的に関する記述などが含まれます。このような記述には、臨床試験の結果、現段階の臨床試験の結果が必ずしもその後の製品開発の行方を確定するものではないこと、将来の臨床試験のタイミング、費用、計画など、臨床試験、製品開発および商品化に付随するリスクや不確定要素、FDA に対して書類を提出するタイミング、当社の戦略の失敗、第三者との提携構築、アヴィジェンとの合併により、イブジラストに関する開発プログラムを統合することにより期待される戦略的、財務的メリットを実現する可能性、イブジラストに関する開発プログラムを進めるための戦略的提携交渉、または、資金調達の可能性、知的財産権や契約上の権利を初めとして、当社が米国証券取引委員会に提出した届出書に記載されているものも含めたその他のリスクや不確定要素など、その多くは当社のコントロールが及ばないいくつもの前提、リスク、不確定要素の影響を受けるものであります。したがって、「将来の見通しに関する記述」はその時点における当社の状況を述べているにとどまり、実際の結果または成り行きは、必ずしも予想通りにはならない可能性があることにご留意下さい。また当社には、この記述に関して、情報の修正または更新を行う義務はありません。